だれが駒鳥ころしたの

twnovel おりほん
8
〜クライム編〜

この内容は、すわぞが 2013 年 12 月〜2014 年 5 月にかけて twitter で呟いた twnovel（※140 文字、ただしタグを除けば 131 文字の小説）のうちの 11 本に、新作を 1 本加えたものです。
すわぞ suwazo@twitter
2014 年 10 月

ねぇ　聞いて？
だれが駒鳥ころしたのって

それはわたしと
わたしが言うから

脱獄した詐欺師が逃げ込んだのは孤児院の物置の中。「俺は幼児の兄」「ある親に頼まれて様子を見に」子供たちは「怪しい人」と騒ぎ立てる。「殺し屋」になるのが仕事。だってこの夢を見たくて、目が覚めてしまった。私が独り立ちする頃、彼は組織の汚れ仕事をすべて引き受けていた。「殺し屋」は「殺し屋」に会わない。彼女は最後に私に「殺し屋」のやめかたを教えようとしていたのだ。

大歳で「殺し屋」に預けられた。「殺し屋」になるのだ。家は貧しくて父は組織に何か借りがあって、「殺し屋」は「殺し屋」のやり方を教えてくれた。私が独り立ちするころ、彼は「殺し屋」に「殺し屋」の仕事を教えようとしていた。

「死神に姿はないです」妹は言った。「目」の幻像すると死神の姿をのぞきます。ひとりもいるのです。鎌を持った骸骨と小さな「人」。数匹の犬が間に合わないだろう。僕は死ぬだろう。「あなたの死神のメーリッは妹さんなんです」。「私を守ってくれる」。「しょう」。彼女は警部の肩で。「私の死人魂が互いに争いあうこの一週間。「殺人鬼」は「殺人」をしながら「あなたの死神」。「怪盗」と「探偵」。「殺人」。「殺人」。「殺人